令和７年度　府立桃山高等学校(全)　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。 ○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、ＳＳＨを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図る。資質・能力「５Ｃ」と「桃山エージェンシー」を身に付けた、個人と社会のウェルビーイングを実現できるグローバルサイエンス人材の育成を目指す。 ○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。 ＊５Ｃ グローバル化とサイエンスの発　展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の５項目として、本校では育成を目指している。 ①Critical thinking and problem solving（批判的思考力と問題解決力） ②Creativity and innovation（創造力と革新力） ③Collaboration（協働力） ④Communication（コミュニケーション力） ⑤Challenge（挑戦力） ＊桃山エージェンシー 自らの能力を活かして社会に貢献しようとする意識	(1)「主体的学習者」の育成に向けた授業改善の動きが、徐々に広がっている。さらに、生徒の多様性に対応するべく、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の要素を、授業改善の視点に組み入れることが必要である。 (2) 新しい大学入試制度に対応するために、組織的な教科指導や進路指導の実施に努めた。その結果、進路実現に向けて、学校全体で指導を行うことができた。また、国公立大学・難関大学・私立大学に、多くの生徒が積極的にチャレンジし成果をあげた。今後は、生徒の進路希望を尊重しながらも、より高みを目指して積極的にチャレンジできるような組織的な指導・支援を継続する。 (3) ＳＳＨ第４期の指定を受けることができた。 (4) 普通科・自然科学科ともに学校設定科目「グローバルサイエンス探究」の内容の充実が図られ、探究的な学びがより一層進み、その成果が、「次世代で活躍する人材」としての資質・能力の育成につなげることができている。 (5) 学校説明会、各中学校での説明会、ホームページ（YouTube）等をとおして、本校の教育理念、ＳＳＨ事業の取組、部活動の取組に魅力を感じた多くの中学生が、本校を志望した。今後は、ホームページだけでなく、Instagram 等を活用した戦略的広報を行うことで、桃山高校の魅力をさらに発信していく必要がある。	(1) 授業・部活動・特別活動において、生徒の「探究力」を高める活動を推進する。 (2)「主体的学習者」の育成に向けた授業改善（「教え込む」授業から「引き出す」授業へ）をさらに推進する。また、学びにおけるＩＣＴの活用等により、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」や「協働的な学び」についての取組を実践する。 (3) 生徒が希望進路の実現のため、主体的・積極的に、諦めず粘り強く高みを目指すことができるように、組織的な指導・支援を行う。 (4) ＳＳＨ第４期初年度の取組に、「資質・能力５Ｃ、桃山エージェンシーを身に付けた、個人と社会のウェルビーイングを実現できるグローバルサイエンス人材の育成」という目標を落とし込み、全校体制でその取組を実践する。 (5) 学校経営方針を最上位の目標として、各分掌業務が前年踏襲にならず、業務の精選や刷新をはかることで、教職員の「働きがい」の向上を図る。 (6) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、高いコンプライアンス意識をもった教職員集団を形成できるよう努める。 (7) YouTube や Instagram 等を活用した戦略的広報を、より一層充実させ、選ばれ続ける学校づくりに取り組む。

令和７年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価 中間		評価 最終		成果と課題
教務部	「主体的学習者」の育成のための教育活動や授業改善の取組を支援する。	第4期SSHの実施にあたり、分掌、教科及び各種会議と連携し、ＳＳＨ関連行事や学校行事等の調整を図る。					
		学年部、保健部及び各教科と連携し、学習に際して課題を抱える生徒に対して、補充等を通してきめ細かく指導する。					
		公開授業などを通じて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を推進し、教科を越えて成果や課題を共有する機会を設ける。					
生徒指導部	生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。また、委員会活動や学校行事等の充実を図ることで、桃山エージェンシーを高めることにつなげていく。	生徒会を中心に、生徒全員の創意工夫を生かした主体的な取り組みをおこない、良き伝統を継承しつつ、時代に応じた新しい桃山高校の魅力を作り上げていく。また、体育的行事を通して、生涯にわたってスポーツを楽しめる能力や態度を培う。					
		HR・部活動・生徒会の活動を充実させることで生徒の主体性を養い、一人一人のキャリア発達・社会貢献への意識を向上させる。					
		部活動への積極的参加を促し、加入率の向上を図り、文武両道を実践させる。また、生徒会と連携を図り、SNSを活用して学校内外へ桃高生の魅力を発信することで、広報活動をおこなう。					
進路指導部	生徒の意欲と桃山エージェンシーに火をつけ、生徒一人ひとりがより高みを目指す進路目標にも主体的・積極的に、諦めず粘り強くチャレンジできるような進路指導を展開する。	前年度の新しい大学入試制度の状況を踏まえ、多様な進路実現に向けて、HRの時間を活用した国公立大学総合型選抜ガイダンス、放課後及び土曜日を利用した平日・土曜学習会を実施する。学校推薦型選抜、総合型選抜などの各種ガイダンス、進路講演会、学習会などの組織的な進路指導が、進路実現を目指す生徒の意欲の向上につながったか振り返る機会を設ける。					
		模擬試験とClassiの学習トレーニング機能との連携など、模擬試験の事後活用の方法を生徒に提案する機会を設け、生徒、教員ともに効果的な模擬試験の活用を実施する。					
教育企画推進部	「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最適化」した学習指導等を実践するために、ＩＣＴ環境を整備し、利活用を図る。	ＩＣＴ機器の整備・整理を進め、教員が必要な時に必要な機器を利用できるような環境を整える。また、ClassiやTeamsを通じて授業や普段の業務で利用できるICTの活用方法を共有し、各教員の業務効率や授業の質の向上を図る。					
	広報をより充実させ、本校の魅力・特色を発信することで、選ばれ続ける学校作りを推進する。	昨年度のアンケート等を基に、説明会や学校案内の内容などの見直しを行い、より本校の魅力を伝えることができるよう改善する。中学生・保護者の目に触れることが多いホームページ、公式YouTubeチャンネルのコンテンツを充実させる。また、生徒会と連携しながらInstagram等のSNSを使った発信も進めていく。					
	「予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力『５C』および自身の強みを活かして社会に貢献しようとする姿勢・意識『桃山エージェンシー』を身に付けた、個人と社会のウェルビーイングを実現するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を教育活動全体に落とし込み、ＳＳＨ第Ⅳ期１年目の事業を全校体制で実施する。	ＳＳＨ第Ⅳ期申請内容に基づいて令和７年度事業計画の取組を実施し、効果検証と成果の波及を行う。 また、SSH第Ⅳ期の取組について、教職員研修等を通して教職員全体へ周知し、生徒が探究的な学びを通して自身のキャリア観を形成し、希望進路を実現させるための取組を全校体制で実施する。					

令和７年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価 中間		評価 最終		成果と課題
保健部	生徒の多様性に適応すべく安心で安全な学校環境の整備（予防的な役割の強化）	学校不適応が心配される生徒の学校生活への適応を支援するとともに、気にかかる生徒の早期発見・早期対応に努める。 そのために、ピアサポート（生徒同士で支えあう）の心得を醸成する。					
		保健委員会の活動に探究的な要素を加える。 その活動により、生徒自身が自分の健康について考え行動できる力（ヘルスリテラシー）を育てる。					
		学校環境のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、環境美化に努める。					
図書部	本校の中核的な取組であるSSH教育活動の一環として、「５Ｃ」と「桃山エージェンシー」を身に付けたグローバルサイエンス人材の育成をサポートする。	各授業や探究活動で教職員の図書館活用を推奨したり、探究に役立つ推薦図書を示すなど、様々な仕掛けを試みる。					
		図書委員による自主的、積極的な図書館運営（班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など）を行う。					
		「５Ｃ」に関する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介・発信する。					
第１学年部	桃山高校での生活を通して、主体的な学習者を育成する。 帰属意識を高め、学校に軸足を置いた生徒を育成する。	手帳またはタブレットでスケジュール管理をする習慣を身につけさせる。定期考査や模擬試験に向けて学習計画を調整する方法をHRや学年集会で意識させる。					
		学年通信や学年集会、HRを通して、生活リズムや学習習慣など基本的な生活習慣の大切さを意識づける。挨拶や身だしなみは適宜声を掛ける。					
		授業や学校行事、日々の学校生活の中で他者と関わり、自他共に認められる生徒を育成する。					
第２学年部	桃山高校での生活を通して、主体的に行動できる生徒を育てる。さらに人とのつながりを大切にし、協働して取り組むことで共に成長し合える集団を作る。	授業、HR活動等の学習活動を通じて、生徒の「探究力」を高める活動を推進する。それにより、生徒自身が主体的に進路選択できるような指導を目指す。					
		担任が生徒たちの思いを聞き出すことを大切にすることで、生徒ひとりひとりが相談することの重要性と話を聞く姿勢の大切さを実感し、相互につながる力の成長を促す。					
		学校行事、LHRを集団がさらに成長するための機会であると捉え、学年通信等を通じて他者の視点から行事を振り返ることで、集団への帰属意識を高める。					
第３学年部	桃山高校での生活を通して、主体的、自律的に行動できる生徒を育てる。また望ましい社会人となるための資質、能力を伸ばすことができるよう、自らの将来を展望し、目標実現のための努力を継続できる力を育む。	ホームルームや面談などを通じて、個々の生徒の特性を把握し、個別最適化した、学習指導、生活指導、進路指導を継続的に行うことを目指す。					
		生徒たちが、進路実現までの見通しを持ち、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。特に関係分掌や教科担当者と連携し、進路実現に向けた課題設定を、生徒たち自らが行うような仕組みを作り、意欲的な態度で学校生活を過ごすことができるよう指導する。					
事務部	効果的な予算執行を実現するため、各分掌、教科等の要望を聞き取るとともに、生徒、教職員に寄り添った学校運営、教育活動の推進に寄与する。	長寿命化改修工事を含め、校内の危険個所、不具合箇所について、迅速に対応するとともに、生徒・教職員の安心・安全に向けた施設・設備の整備・充実を図る。					
		ＩＣＴ機器を中心とした教育環境整備に努め、生徒に効果的で質の高い学びが保障できる教育環境を提供する。					

令和７年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価				成果と課題
			中間		最終		
国語	国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成する。	ＩＣＴ教材を積極的に運用しながら、生涯にわたって主体的に学び探究していく学習者の育成を行うと同時に、生徒の多様性に配慮した学習指導や、「協働的な学び」について研究・実践を重ねる。					
		新科目の指導のあり方について総括と研究を深めるとともに、大学入試で要求される課題（教科問題・小論文）の研究を進め、生徒の国語力育成に還元すべく、教科内で情報を共有する。					
地歴公民	授業や探究活動を通し、知的好奇心を高め、生涯にわたって「学び続ける」生徒を育む。	質の高い授業を展開し、小テストや個別指導、模試の分析と生徒へのフィードバックを通して、知識理解の定着と希望進路につながる学力の伸長を目指す。					
		ICTや史資料を積極的に活用し、「協働的な学び」を実践するとともに、現代の社会事象の背景や要因を考察する主題学習の活動を通して、思考力・表現力、「問いを立てる姿勢」の育成を図る。					
数学	学習意欲の向上を基盤にした主体的学習者の育成を目指す。グローバルサイエンス探究との相互の連携を図り、論理的思考力の獲得を通して実践問題に積極的に取り組む態度を養成する。	小テスト、定期考査、模擬試験の到達度目標を早期に提示することで、学習計画の作成を習慣化させる（チェックシートや手帳の活用）。目標に向けた取り組みの過程では、多様な生徒に応じた学習方法の提案や長所を生かす指導方法を検討する（個別最適化）。また、できるだけ多くの生徒に数学検定の受験を推奨し、習熟度の高い生徒には数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促して、数学の楽しさや深く考える面白さに触れる機会を提供する。					
		深い学びにつながる教授法やデジタル教科書等の利活用について、継続的に検討する。また、ICTを用いて生徒のレポートや添削課題等を生徒間で共有し、ペアワークや探究活動を通じて数学的・論理的思考力を磨く。					
		新学習指導要領の施行年度にあたり、教育課程および指導計画や評価の方法について、従来の評価と観点別評価の整合性を踏まえ、昨年度までの実践結果をもとに検証を行う。					
理科	協働的な学びや自ら仮説を立てる実験の実践を通して科学的に探究する活動の充実を図り、主体的学習者の育成及び科学的思考力の向上につなげる。	思考力・判断力・表現力を育むための実験・探究学習を積極的に行う。					
		観点別評価法の研究や生徒アンケートを通して、「指導と評価の一体化」の観点から授業改善を行う。					
		教材や授業を積極的に公開し、教科内外へ広く共有する。					

令和７年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価				成果と課題
			中間		最終		
保健体育	体育・保健の見方・考え方を働かせて健康課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程や探究活動を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	具体的な知識と汎用的な知識とを関連付けて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。また、技能の向上に向け、ICTの有効活用を積極的におこなっていく。					
		健康課題を発見し合理的、計画的に解決することや、新たな課題の発見や探究活動につなげたりすることができるよう知識を活用、応用して思考・判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を利活用して筋道を立てて伝えることができるよう指導する。					
		愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。					
芸術	音楽：学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。	主体的に音楽に関わり、感受する力を育成するため、表現、鑑賞のそれぞれの学習内容について、批評活動を積極的に取り入れる。					
	美術：授業と評価の一体化をふまえた授業計画を立て、その趣旨を理解した主体的な学習者の育成を図る。	課題のテーマや評価観点を具体的にかつ明確に示すと共に自分の創作活動を客観視するために生徒相互の評価活動を授業内に組み込むような授業計画をたてる。					
	書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。	基礎・基本を身につけ、「表現」、「鑑賞」の学習内容に、批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。					
英語	英語学習における「主体的学習者」を育成する。	授業、家庭学習を通して、主体的に英語力向上に取り組めるよう、ICTを効果的に活用するとともに、１年間の学習計画と効果的な学習方法を明確に示す。					
		教員による解説を簡潔にし、ペア・グループワーク、パフォーマンステスト等を通し、生徒の英語の発話量・読解量・活動量を増やす。					
		パフォーマンス課題をさらに推進し、自己表現や学習成果のアウトプットの場として生徒が主体的に取り組み、英語を使う楽しさを感じられるようなパフォーマンス課題の仕組みをつくっていく。					

令和７年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価 中間		評価 最終		成果と課題
家庭	「衣・食・住・消費・福祉・子ども・環境」など多面的な学びを実現させるとともに、キャリア教育・消費者教育・ジェンダー平等・SDGｓへの理解を深める	消費者トラブル事例や契約・情報リテラシーに関する教材を活用し，実践的な判断力を育てる。					
		「持続可能な衣食住」をテーマに，廃棄医療問題，地産地消，食品ロスなどの課題を扱った動画視聴や探求型授業を行う。調理実習や被服実習も取り入れる。					
		乳幼児と高齢者の生活や福祉についても，ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティー体験」実習により理解を深める。					
情報	新学習指導要領の確実な実施により、情報と情報技術を活用する力と情報社会に参画する力を養う。教科の教育活動を通して学びの自己調整能力を養い、生徒の実践的な情報活用能力を育てる。	教育課程の改変に対応する。従来ＧＳ探究Ⅰで培った指導や評価の実践を踏まえて、新しい科目ＧＳ情報の具体的な指導と評価のあり方や手法を確立する。					
		Society5.0を見据え、社会全体に対する関心を深めるとともに、生徒一人ひとりが主体的に情報社会に関わっていく態度を育成する。					
グローバルサイエンス	探究的な学びを通して、予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力「5C」の育成および桃山エージェンシーの育成を図る。またSSH４期目１年目にあたり、目標や実施計画を全教職員で共有し、実施していく。	GS探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して、３年間の探究的な学びのストーリーを生徒、教員、保護者が実感できるように、探究通信等を用いて情報発信する。また、職員会議での研修や協議・公開授業などを通して、目指す生徒像を教職員全体へ周知し、探究的な学びを通したキャリア観の形成糖について共通認識を作る。					
		自己と社会のウェルビーイングを目指す資質能力の育成に向け、GS探究Ⅱを中心に、学部人材の活用や学校外での活動を充実させていく。					
		SSH４期の目標達成に向け、生徒の資質・能力、姿勢・態度を評価するルーブリック・評価方法を全教職員で検討する。					

学校運営協議会による評価	

次年度に向けた改善の方向性	